

産地パワーアップ事業の取組事例

(群馬県)

取組の概要

計画作成主体：片品村地域農業再生協議会
 対象品目：野菜（雨よけトマト）
 （産地面積30.76ha）
 主な取組主体：利根沼田農業協同組合
 成果目標：販売額の20.01%以上の増加
 基準（H27年度） 741百万円
 目標（R3年度） 889百万円
 導入施設等：整備事業
 （集出荷貯蔵施設選果機整備）
 生産支援事業
 （ハウス資材、機械リース）



ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

片品村は、中山間地域の夏期の冷涼な気候を生かした、全国有数の雨よけトマト栽培の産地である。トマトの品質は市場関係者からも高い評価を得ているが、8～9月の最盛期には選果機の能力を超える出荷が続くことがあった。また、市場への出荷時間が遅くなり販売面でも不利となっていた。

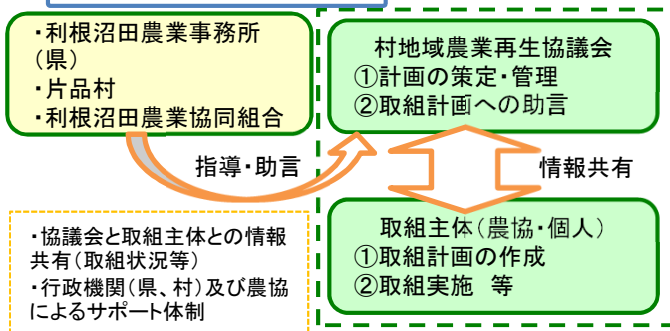
このことから、迅速かつ効率的な選果を可能にする新たな選果機を平成29年度に導入した。今後は、新たな生産者の確保や規模拡大に向けた施設と灌水装置等の導入を支援し、販売額の増加と更なる尾瀬トマトのブランド確立に努める。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①集出荷施設に機能の高い選果機を導入（平成30年度稼働）
- ②雨よけパイプハウスの導入
- ③育苗自動灌水装置の導入

推進体制



地域における独自の取組

〈主な取組〉

- ・選果基準及び栽培マニュアル作成
- ・灌水装置による育苗管理と同装置のほ場への応用
- ・定期的な栽培技術講習会の開催

期待される事業効果

【事業実施による直接効果】

- ①選果機の整備による労働時間の短縮
- ②施設導入による品質、収量の向上
- ③灌水作業の労力軽減

【事業実施による間接効果】

- ①生産者の出荷搬入時間の短縮
- ②栽培面積の拡大による生産量の増加
- ③灌水の省力化による他の管理作業の充実

雨よけパイプハウス



自動育苗灌水装置

機能の高い選果機



販売額が増加

～ トマトの販売額 ～

20.01%以上増加

889百万円

741百万円



H27年度



R3年度